

平成27年度第2回鳴門市水道事業審議会 会議録

開催日時：平成27年9月30日（水）午前10時00分から午前12時00分まで

開催場所：鳴門市水道会館3階第1会議室

出席者：審議会委員11名

【玉有会長、金副会長、開発委員、五島委員、西條委員、芝野委員、武田委員、中岸委員、出口委員、原委員、村上菊雄委員】

鳴門市6名

【鈴江水道企画課長、氏橋水道事業課長、事務局4名】

傍聴者1名

開催次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 前回会議録について
 - (2) ビジョン素案の修正箇所について
 - (3) ビジョン素案に対する意見について
 - (4) 次回開催について
- 3 閉会

会議資料

開催次第

- 【資料9】平成27年度第2回鳴門市水道事業審議会座席表
- 【資料10】平成27年度第1回鳴門市水道事業審議会 会議録
- 【資料11】鳴門市水道事業ビジョン素案修正箇所一覧表
- 【資料12】鳴門市水道事業ビジョン素案に対する質問や意見への対応案
- 【資料13】用語解説
- 【資料14】県内他市町の水道料金比較

会議概要

- 1 議事(1)について、資料10を各委員において確認してもらうよう依頼した。
- 2 議事(2)について、前回の審議会における委員からの質問、意見を受けて事務局において修正を考えている箇所について、資料11を用いて事務局より説明を行った。
- 3 議事(3)について、委員から事前に寄せられた質問や意見に対する回答や対応案について、資料12を用いて事務局より説明を行い、質疑を行った。質疑の内容は下記のとおり。
- 4 議事(4)について10月下旬を予定しており、後日に改めて調整すると事務局より説明を行った。

質疑概要

(委員)

16ページの管路全体と基幹管路の関係性がわかりにくいので修正した方がよい。21ページでは管路総延長に対する更新実績ということを明確にすべき。市広報9月号記載の、補助事業である老朽管更新事業との関係性もわかりにくい。補助事業では基幹管路の更新をしているのか、それ以外の管路も含まれているのかきちんと説明すべきではないか。

(事務局)

次回までに再修正を検討する。

(委員)

アセットマネジメントの実施結果について、50年、100年先の持続性を検討すべきというのが国の新水道ビジョンの趣旨だと思うが、長期的に収益が減少していく中で必要な投資を行うことにより大幅な累積欠損金と資金不足が生じるという結果が示されている。この不足について収支をすりあわせて将来的に事業を維持していくためには何をすべきかということを確認すべきではないか。

(事務局)

アセットマネジメントの趣旨については指摘の通りだが、長期的には人口減少により料金収入が大幅に減少することはほぼ確実な中、その減少分を費用の削減によりすべてまかなうことも困難である。収支を合わせるためには料金改定が必要だが、欠損金と資金不足の解消のためには、現行の約3.4倍の料金水準とする必要があり、この料金水準も現実的なものではないと考えている。よって40年間の収支を合わせるのではなく、現在の見通しを示したうえで、ダウンサイジングや施設の統廃合、一般会計の負担などの、事業を維持していくために考える施策を推進していくという内容にとどめている。

(会長)

急速に人口減少が進んでいる中、施設規模を見直し、より効率的に施設を配置するコンパクトシティの整備の検討が全国的に行われている。市全体では人口フレームなどを考慮しながら公共施設管理計画を策定する中で議論されていると思う。水道事業においても同様であり、28ページ記載の通りアセットマネジメントの実施結果によると現在と同様の施設規模ですべて更新を行うとこのような結果になるので、料金水準を上げなければならない。しかしながら、料金が高くなりすぎるため、施設の長寿命化、ダウンサイジングを検討していく必要があると記載されている。アセットマネジメントの結果はひとつのケースとしてとらえたうえで、今後検討をすすめることにより、より具体的にどうすべきかということが議論されていくのだろう。

(委員)

非常に難しい問題であるとは理解した。水道事業だけの問題でもないであろう。ビジョンにおいては問題提起にとどまってしまうのだろう。現実的には更新を遅らせるなどしかできないと思われる。

(委員)

給水収益以外の収益を増やすことはできないかという意見に対して、現行法では対応できないとされているが、法改正や規制緩和について働きかけを行うべきでないか。関連して自動検針についてコスト、セキュリティの面で問題があるとされているが、民間事業者が設置している回線網等を利用すれば可能ではないか。例えば、市の福祉施策として高齢者の見守り事業などはこういった方法で行われている。水道事業の中だけで考えるのではなく、市の他部局や民間事業者との連携を図っていかなければ、事業の維持は困難ではないか。また、他市町との料金比較について口径13mmで比較をしているが、市内で現在主に使用されているのは20mmなので20mmで比較すべきではないか。

(事務局)

本市の場合は13mmと20mmで料金に違いはない。他の市町については口径別の料金を定めているところと一律のところがあるので、20mmと比較すると多少は違うと思うが、全国的な統計資料がある13mmと比較している。20mmの統計資料を調べてみる。

(委員)

水道と下水道の関連について、下水道区域内の市民からは下水道料金の設定が高すぎる、なぜ水道より下水道の方が高いのか、合理性のない料金設定だとの意見を聞いている。市民の感覚としては水道と下水道は一体のものにとらえている人が多い。行政としてこういった市民感覚をとりいれて考えていくべきではないか。下水道に限らず、教育、社会福祉などの市民負担が大きいため若い人が市外に流出している。水道料金まで高くなればこれがますます進んでしまうのではないか。総合的な視野をもって考えなければ大きな問題となる。

(会長)

市民の感覚としては生活する中で生じる負担として一体のものというとらえ方をしていると思う。今後の水道事業には市民の理解や視点が非常に大切となるだろう。また、市の他部局との連携やICTの活用なども重要となると思われる。国においては省庁毎の縦割りにより水道、下水道は完全に別のものとされているが、やはり市民の感覚とは乖離している。行政としてはどうしても現行の制度や枠組みにとらわれがちだが、50年後、100年後を見据えたビジョンであれば、もう少し総合的な視点をもって事業をとらえたり、ICTの活用や規制緩和などを検討するという記載があってもよいのではないか。こういった表現ができるか検討を行って欲しい。

(委員)

我々が審議会委員として参加しているのは、行政側が民間の感覚を取り入れたいと考えているからだと思っている。できるできないは別にしてももう少し柔軟に民間の発想をとり入れるように考えて欲しい。このままでは事業が維持できないのは明らかだ。完璧な対策は難しいと思うが十分検討して欲しい。

(委員)

市民としては料金が安いに越したことはない。例えば管の口径を小さくしたり、給水栓での水圧を下げることにより管を長寿命化したり、投資の検証を十分行い、コストを下げる努力を最大限行うべきである。管の老朽化は深刻であり、できるだけ早急に更新を行う必要があると思うが、その際にはコストの検証を十分行って欲しい。

(委員)

ビジョンも行政計画であり、現状の延長線上で考えたうえで記載しなければならず、表現の限界はあると思うが、総合戦略などで市の人口を増やしていこうという取り組みなどの動きも出てきている。このビジョンにおいても、それらの新たな動きを前提として何か記載できる余地があるのではないか。水道事業が将来的に非常に厳しい状況なのは分かるが、最終的には料金改定しかないというのではなく、目指すべき理想像として記載できることがないか検討してほしい。

(委員)

将来的には破綻することが目に見えている一方で、水道は生活インフラとして維持しなければならないものである。市民が水道事業のおかれているこの状況をどれぐらい理解しているのか気になる。広報活動や教育を積極的に行い、市民の理解を進めることも重要である。ビジョンにも記載はあるが、そこは大きな課題と思う。また、原水水質の監視強化とあるが、監視体制は現状どうなっているのか。市は川の原水の管理についてどのような役割があり、どこまで関与できるのか。現在の表現ではそこまではよく分からない。

(事務局)

旧吉野川の管理者は国土交通省であり、国土交通省が旧吉野川を水源とする自治体が協議をする場を設けている。ビジョンに現状と今後の取り組みについて記載することを検討する。

(会長)

ビジョン全体を通じて現在の水道事業を基本として持続するという考えが強いと思う。ビジョンという性質から、利用者である市民の目線に立ってもう少し将来的な可能性や他部局との連携について記載できないかを次回までに十分検討して欲しい。